

2018年8月15日～17日、東京集会講座によせて

ミヒヤエル・デーブス

真理とは何でしょうか？ キリスト教についての真実とは何でしょうか？

「真理はただ一つである」と言うことは可能です。しかし人間が個人として真理を獲得するために努力するときは常に、まず一人一人は「自分自身の」真理から出発しますから、一見多くの真理があるように見えます。

キリスト教についての真実を最もよく知っていたのは、いつもキリストと共にいて、彼を目撃し、彼の弟子となった人々にちがいません。彼らはさまざまな道の上でキリストを体験しました。けれども彼らはキリストを理解していたのでしょうか？ キリストが十字架上の死を遂げ、そのために散り散りになって絶望していた十二弟子は、50日後の聖霊降臨の日、再び家の中に集まっていました。そして彼ら一人一人が自分のキリストとの体験から、全体の中にある個人的部分としてキリストを理解し、それを一つの文にまとめました。そして伝説によれば、弟子たちが12の文をすべて語った時に聖霊体験の出来事が生じたといわれています。「そこで突然霊的な高みから、激しい風が吹きすさぶような音がし家全体を満たした。そして炎の舌のようなものが現れ、分かれて弟子たち一人一人の上にとどまった。そして弟子たちは皆聖霊に満たされた」。このようにして弟子たちは、自分たちが真のキリストの共同体であることを自覚したのです。

キリスト者や共同体の信条文・クレドの12の文に含まれているのは、このようなキリスト教の真理なのです。

ミヒヤエル・デーブス氏 略歴



1943年ドイツ生。大学で数学、物理学、哲学を、キリスト者共同体司祭養成ゼミナールで神学を学び、69年司祭就任。1978年～2007年ゼミナール教授として司祭養成・多くの日本人学生の指導にあたった。現在はドイツ・ミューリンゲン集会司祭。人智学の識者・講演者としての評価は非常に高く、集会司祭としての活動の傍ら、世界各地で講演、講座活動を行う。宗教と医学、教育など他分野との協力活動に積極的で、著作多数：「物質と光」、「コンピュータに“攻撃”される人間」、「信仰と認識」、「人智学とキリスト教会の改新」、「天使体験」、「マリア・ソフィア」など。最近では日本、韓国などでの講演、講座活動を毎年行い、アジア文化に深い関心を寄せている。

キリスト者共同体について

キリスト者共同体は、1922年に中部ヨーロッパで開始されたキリスト教運動です。創立にあたって、人智学（アントロポゾフィー）の創始者であるルドルフ・シュタイナーの大きな助力を得ています。日本では2000年6月から正式に活動を開始し、現在、東京と大阪に二つの集会（教会）があり、また札幌には定期的に司祭が訪問する準備会があります。

キリスト者共同体は自由な精神を大事にします。そのため特定の教義やドグマを設けず、新しい礼拝と儀式（サクラメント）の実施を活動の中心におき、現代にふさわしい宗教活動を創造することを目指しています。

キリスト者共同体の儀式、講演、講座などの主要な活動には、一般の方でも自由にご参加になれます。

